



復刊第66号
題字 吉岡弥生

春を迎えて思う

会長 三 神 美 和

陽春の候会員の皆様には、ますますおすこやかに、社会のためご活躍のこととおよろこび申し上げます。

去る二月二十二日の臨時総会を契機として、一年間つづいておりました本会の「いざごさ」も解決されましたことは、誠によろこばしいことと存じます。冷々とした冬から暖かい春を迎えた思いでございます。長い間、会員の皆様も、本会のために胸を痛め、頭を悩やまされたことと存じます。大変ご迷惑をおかけしましたことを心からお詫び申し上げます。

しかし、ひとたび双方の握手が出来ました以上、これからは一本となつてご協力下さることと存じますので、差し迫った国際女医学会々議に向つて万全の準備を整えたいと存じます。各組織委員会が度々会合をもち、具体的に着々と準備を進めておられることは、誠に力強い限りでございます。資金面に

おいては、経済界の不況下で、一般のご寄附が思うに任せぬ状態でございますが、去る三月二日の官報で大蔵省告示第十五号として寄附免稅の告示がございましたので、これからはその方面のご協力も容易になるのではないかと期待しております。

思えばこの大蔵省の免稅措置の許可されるまでの道程は、誠に長くきびしいものでございました。色々の困難をのり越えて、ここまでに漕ぎつけられたご熱意に頭の下る思いが致します。これもただ日本のために、国際女医学会議を成功させるためにという一念からでありました。これは若をも通す程の強い一念であったと思います。各部署を受け持っている組織委員の方々も誰かが私心なく、ひたすら会のためにということ而努力しておられます。開業の忙しい間を縫って、会社に、役所に、会合にと出かけておられるご様子

を拝見して、本当にご苦勞様と手を合わせ心から感謝申し上げます。この皆様の力の結晶が更らない筈はないと存じます。国際女医学会々議は必ずや成功するものと確信しております。それにしても会員のご出席が會議を盛り立てる大きな要素となりますので、多数のご出席をお願い申し上げます。外国のお客様を歓迎する気持ちをこめて奮つてご登録下さい。

この一年間執行部も色々とお教えられたところが多かったと思ひます。この尊い教訓を生かして、今後は十分に注意して参りたいと存じます。現在の目標は国際會議一辺倒ですが、日本女医学会は如何にあるべきかは、皆様がそれぞれ考へておられると思ひます。国際女医学会々議が終ればそれで事足りるとは、となたも考へていないと思ひます。会員全体が日本女医学会のあるべき姿、存在意義について考へて行かねばなりません。執行部の方々も会員でありま

すので、それぞれ考へを持っていてほしいと思います。よい考へを集結して日本女医学会は前進すべきものとして考へております。私は現在本会の最も弱いところは學術部門であると思ひます。それで新たに學術部をもうけて、日進月歩の医学に立ち向つて行かなければならないと思ひます。また時局問題、社会問題についても理解を深める必要がありま

東京會議へあと四カ月

国際女医学会々長 小野 春 生

先日井出ひろ先生、北沢あさを先生、荒川あや先生お三方の仲介のご尽力で臨時総会が開催されました。

故中村キヌ先生、および先輩の三先生が円満解決できるようにご配慮いただきましたことに心から感謝致しております。これで皆、手を握りあつて、八月の国際女医学会々議を立派に成

功させる事が出来るかと存じます。どうか皆様のエネルギーを持ちより團結し、お互いに理解するように和の精神でこを運べば、必ず成功するものと信じます。私は四月二日からウィーン本部へ八月の東京會議の打合わせにまいります。またその折にデンマーク、スエーデン、ドイツ、オーストリア、イギリスおよびアメリカの女医学会の方々にあつて皆様のご意見をうかがうつもりでございます。

その他の国際女医学会加盟国にも会長として訪問すべきであります。次の機会にして四月末に帰国いたします。訪問先の各国から、女医に関する問題で、いろいろの話題が出ると思ひます。

ア、イギリスおよびアメリカの女医学会の方々にあつて皆様のご意見をうかがうつもりでございます。

第二十一回 定時總會開催のお知らせ

本年度總會は役員改選のため、左記のとおり開催されます。

總會

日時 昭和五十一年五月十六日 (日) 午前九時

場所 東京 京王プラザ・ホテル コンコード・ルーム(五階)

會費 千円

懇親會 (總會終了後)

場所 京王プラザホテル コンコード・ルーム(五階)

會費 六千円

評議員會

日時 昭和五十一年五月十五日 (土) 午後四時

場所 京王プラザホテル 四十三階コメット

京王プラザホテルにお泊りの場合

〇三三四四一〇二五六番へ連絡しますと日本女医学会として団体料金になります。

ア、イギリスおよびアメリカの女医学会の方々にあつて皆様のご意見をうかがうつもりでございます。

インフレで困っている国、若い人もっと女医になるようしむける国、女医と幼児の保育園の問題などいろいろあることと存じます。興味深いものは帰国いたしましたから発表いたすつもりです。

どうか一人でも多く東京会議にご出席下さいますよう、お願い申し上げます。

評議員会議事録

日時 昭和五十一年二月二十二日
午前十一時十分—十二時十分
場所 東京女子医大 佐藤記念館

司会 柳瀬路子
評議員数 百十三名
出席者数 六十名
委任状 三十五通
定款により評議員会成立。

会長挨拶
今日の臨時総会の眼目は仲介の先生によって話し合いが出来、臨時総会を開いて仲良くすることであるが、社団法人として議題をもたなければならぬため本会は国際女医会会議について予算をふくめ協議されるのであらかじめ了承を得たい。

議長選出について
選挙、推薦、会長一任、の声があったが会長一任多数にて、仁瓶礼子氏に依頼。

第十五回国際会議準備状況について
山崎事務総長
☆委員会について、四十九年八月一日

全支部長及び国際女医会会議に出席された先生方に組織委員のひき受け方を願ひ、委嘱状を送り、また推薦方を願ひ、八月二十五日、第一回組織委員会開催、百十六名出席、その席にて全組織委員の中より、度々の準備の集りに出席可能の方を推薦願ひ、その後追加推薦を受け、全理事、監事を合せ五十四名の常任組織委員会を構成、業務の分担を定め、準備をすすめている。後一八二日しかない。常任組織委員に今後の運営をおまかせ願ひ度い。

(拍手)

☆会期について、先般小出先生方との話し合いで了承済みの通り八月二十二日—二十七日までと決定。

☆会場 京王プラザホテル。

☆先般山梨の総会で皇太子妃殿下のご臨場を賜りたい旨申し出たが、諸般の事情で皇族関係は一切お願ひしないことになった。

☆四十九年十月、日本医師会、東京都医師会から後援の承諾を得る。

☆五十年十二月、厚生省より正式に後援の承認を受ける。さらに十二月二十九日厚生省より、国際女医会会議に対する国庫補助金三〇〇万円を頂くことに決定。なお、是非会議を成功させるようにと励ましを受ける。

質問 橋本恵美子
組織委員会は国際女医会議をスムーズに運営するための組織と思うが、総会にかけたか。

答 山崎 倫子
昭和四十九年六月、五十九号の日本女医会定時総会の議事録第七号に記載

済み。

質問 橋本恵美子

大きな仕事をするに際し理事会の意見で承認されたと思うが、評議員会並びに総会、臨時総会で本来検討される筋のものではないか、また最初の組織委員会と現在の構成されたメンバーとは大変異なっていると聞くが、我々は全く聞かされていらない。上意下達で、民主的と考えているのか、会期の件もさることながら会場を何故変えたかについて聞いていない。一体会員をどう考えているのか、疑問がわく。何事も理事会に一任されていると理事は思っているかも知れないが、会員の総意が事を立派に成し遂げる土台と思う。裁判沙汰も、ここから起ったと思う。その点の説明を乞う。

答 山崎 倫子

昭和四十七年バリーでの第十三回国際女医会議で日本が第十五回国議を引き受けることが決定。当時四年先のこともあり、余り審議されていなかった。昭和四十八年暮、骨組だけでも作らなければとの意見がでて、国際女医会本部からの資料、日本で行われている他の国際会議の資料等の検討をし、約半年間かかる。その時点で語学の堪能な中村西子先生に執行部に参加を願ひ、準備委員会のようなものを作る。会誌にも発表済みであるが、理事会での骨子だけのものであった。その後会員の意志を反映すべく既述の如き形で四三三名の組織委員が決り、五十四名の常任組織委員が依頼された。初めの分担と異ったのは運営上の諸

条件からであり、また窓口を一本にと言うことで選挙により山崎が事務総長になった。

各部報告

総務部報告 丸山 実

会議用の靴等は発注済み、おみやげの金襴の袷紗は安く入手し今月中に届く予定。ネームカードは近々発注の予定。靴の中に入れるファイル、ボールペン等、これから寄付を願ひ予定。

来賓、招待者のリストアップをして貰い人数の把握をしたい。来月より会場関係について現地を見て細かい筋書をきめる予定。

學術部報告 藤井 博子

配布のコピーの通り、現在七十九の演題申込、五十年九月十七日から二十日まで国際会議學術委員長タッドベリ

氏来日、演題を分類し學術講演予定表作成、当初演題を五十と見込んでいたが講演会場を二会場とし、ワークショップを三会場にて行うことにする。

三月三十一日切の講演内容到着次第、講演全文と、英仏語、日本語の抄録を、オフセット印刷する予定。

経理部報告 福永 ひろ子

今迄、六千五百万円の予算が、七千八百万になった理由は前回の組織委員会で発表済みだがこの中に厚生省よりの国庫補助金三百万を含む。今回大蔵省より予算概算書を報告するよう指示あり、公認会計士と共にこれを作る。これは昨年七月、常任組織委員会で検討したもので承認を得度い。別紙の通り。

募金部報告 柳瀬 路子

昨年秋までは不安であったが、暮よりようやく愁眉を開いた。十二月三十一日現在の募金額は別紙の通り。その後、千葉、静岡、岡山、広島、高知各県より入金あり感謝する。大口寄付は未だ入らぬ状態で会員の一層の協力を願う。

登録部報告 大原 一枝

登録部報告 大原 一枝

上京遅れ代理より説明。

代理 山崎 倫子

日本女医会員の登録は日本女医会の事務局で行い、外人登録は業者が行う。

渉外部報告 中村 西子

役目は二つある。一つは、社交行事に関するもの、一つは、病院・施設見学に関するもの。

日本女医会主催の歓迎レセプション、国際女医会主催のバンケット、共に記念になる心暖まるものにした。

病院見学には医学用語等の点から通訳の人より日本女医会員の中で英語の堪能な方に協力願ひたい。日光日帰り旅行も日本女医会の行事であり会員の多数の参加を乞う。

以上で報告終了、十分間休憩、その間昼食をとる。引き続き質問に移る。

小出つる子氏より

「郷土の民芸品等を二十個位ずつ持

って来て

は」等の

発言あり。

和気あい

あいの中

に閉会。



日本女医会臨時總會

昭和五十一年二月二十二日
午後一時十五分～五時四十五分

於 東京女子医科大学本部講堂

臨時總會順序

- 發送數 四、四四一名
- 出席者 二〇一名
- 委任状 一、五二四名
- 記名委任状 一、一三三名
- 白紙委任状 三九一名

司會者丸山芙実、臨時總會成立を宣す。

会を進めるに先立ち仲介者の一人であられた故中村キヌ先生へ黙禱。

- 一、會長 挨拶
- 一、仲介者(井出、北沢、荒川)各先生挨拶
- 一、議長 選出
- 一、議事録署名人選出

- 第一部 祝 明
- 小野 春生、三神 美和
- 山崎 倫子、及川 富美子
- 三輪 輝子、小出 つる子

第二部 国際女医会第十五回国際会議準備状況について

- 事務総長、総務部、學術部
- 経理部、募金部、登録部
- 渉外部報告

- 一、閉会の辞 丸山芙実

司會 丸山芙実

一、三神美和會長挨拶
本日の出席会員にご出席を深謝。多数の方々は今までのさまざまの事が本日をもって終止符が打たれるのを期待してのご出席と察する。昨年から一カ年間、執行部と会員諸氏の中の一部の方々との間に意志の疎通を欠き、両者の対立は社団法人日本女医会が小出つる子を代表とする一部の方々によって地裁に提訴されるにいたり、日本女医会の分裂を案ずる向もあり、また、今度おこなわれる国際女医会第十五回国際会議がスムーズにおこなわれぬおそれもあつたが現実は何ともしがたい状況になっており、日本女医会の平和と国際会議を会員一致で開催したい希望が達成されるか否かをあやぶんでいた矢先、北沢あさを先生が心配され、神奈川県の中村キヌ先生、井出ひろ先生および荒川あや先生ともども仲介の労を申し出くださった。昭和五十一年一月二十三日ホテル・オークラのロビーにおいてトップ会議が行われた。

子、及川富美子、野村淑子(三輪輝子代理)、仲介者、北沢あさを、井出ひろ、荒川あやの諸先生であつた。残念ながら、中村キヌ先生は心臓の発作で倒れられトップ会議の前に亡くなられた。日本女医会のご心労も心臓発作の誘因とも考へる。ご厚福をいのる。

同、最後まで混乱なくこの会を立派に終らせたいので協力を願う。

二、仲介者各先生挨拶
1 井出ひろ氏 大勢集まつてこの会を開催できて嬉しい。日本女医会のモツレが解け合つて結構。女医さん達とは、世間の批判も昨今いろいろ耳にするので、この辺で日本女医会の平和をとりもどすべきである。このような役は老人の責任と感じ双方に話しあいを開始。双方とも強い方々のみで、私どもが無理を申してもきくものではない。したがって今日の会は両者了解の上に立つておこなわれたものである。なお、国際女医会を立派にしたいので協力を願う。大きな視野をもって、小事を棄て、仲よくしていただきたい。

二、北沢あさを氏 駄足の必要なし、臨時總會を本日もてるのは会員の理解のため。仲介者の目的とするところは日本女医会の結束にある。他意なし、今日この席で懇談をし国際会議のために努力されたい、各人大人の考をもち、信義を重んじ約束をかく守り、平和に明るく、清楚にこの会をおこなつて欲しい。

3 荒川あや氏 自身の挨拶は省略する。中村キヌ先生は日本女医会を心配され、定款改正の話をされた。その後二時間後に倒れられた。吉岡弥生先生をほめたたえる。本日を平和に終りたい。

三、議長選出
司會 仲介者に感謝。
議事録署名人は鈴木文字子、松村鉄子および橋本葉子の三会員に決まる。

四、祝 明
* 小野春生氏 国際会議の会期の決定について詫言。反省もする。不注意見許されたい。
* 三神美和氏 国際女医会々長の小野氏がいうごとく、国際会議の役員会で会期が決定されたそのことについて、国際女医会第十五回国際会議の組織委員会で簡単に決定したことに端を発し、皆様に多大の迷惑をかけ、混乱させた事を深く詫言る。
* 山崎倫子氏 小野、三神両先生と同様、国際会議を日本に招致すると決定後、準備も必要なので組織委員会を開き、相談をいたしていたが、その事等の情報を速やかに流すことをおこたひ気味にしていた不手際を、深く詫言る。残された一八二日間を充実したものとしたい。よろしく。申訳ない。

この日の出席者は三神美和、小俣喜久子、山崎倫子、小野春生、小出つる子、及川富美子、野村淑子(三輪輝子代理)、仲介者、北沢あさを、井出ひろ、荒川あやの諸先生であつた。残念ながら、中村キヌ先生は心臓の発作で倒れられトップ会議の前に亡くなられた。日本女医会のご心労も心臓発作の誘因とも考へる。ご厚福をいのる。

同、最後まで混乱なくこの会を立派に終らせたいので協力を願う。

二、仲介者各先生挨拶
1 井出ひろ氏 大勢集まつてこの会を開催できて嬉しい。日本女医会のモツレが解け合つて結構。女医さん達とは、世間の批判も昨今いろいろ耳にするので、この辺で日本女医会の平和をとりもどすべきである。このような役は老人の責任と感じ双方に話しあいを開始。双方とも強い方々のみで、私どもが無理を申してもきくものではない。したがって今日の会は両者了解の上に立つておこなわれたものである。なお、国際女医会を立派にしたいので協力を願う。大きな視野をもって、小事を棄て、仲よくしていただきたい。

三、議長選出
司會 仲介者に感謝。
議事録署名人は鈴木文字子、松村鉄子および橋本葉子の三会員に決まる。

* 及川富美子氏 中村キヌ先生と仲

介者お三方にお礼。臨時総会の必要を再三再四執行部に要求したがききいれなかつた。ようやく執行部が本日開催。開催せねば分裂をまぬがれぬと思われた。至誠会の内紛ときめつけられない。なお、執行部はもう日がないとかいうべからず。これ以上もめると面目がない。小野さんが頭を下げ、三神先生もあやまったので提訴を下げた。我々は今日までに六百万円を費した。国際会議のために使用したかったのに残念である。ただし、体力的労力を失ったが、無駄ではなかつた。上意下達をやめること。定款の無視をやめること。フェアな会の運営をのぞむ。

*三輪輝子氏 社団法人の理事は月給をもらっていない、その上託びを入れてもらった。会場の設営がよくない、それは中村キヌ先生の遺影があるのに花がかざってないしスローガンもよめない程小さい字である。ムードづくりが成っていない。皆さんがあやまり、至らぬと託びるが至らぬ理由をいわないのは何故か。トップ会議の合意内容と緊急理事会の内容が異なるのは何故か、臨時総会招集状の発送後提訴を取り下げると、トップ会議できめたというのに提訴を招集状発送前に下げよとはどうしたのか。理事は日本女医会や国際女医会の定款等を勉強すべし。理事の態度は、日本女医会はどうでもよい、国際女医会さえやればよいというように見受ける。私はトラブル・メーカーと言われた。本日日本女医会に退会届を出した。

松沢氏・小野さんがあやまる事から

はじまった。会長がみんな悪いといわれてはこまる。

及川氏 トップ会議と理事会とは提訴を下げる時期がちがったが平和を切望したのでかくした。

*小出つる子氏 筋をおしした。エスカレートしたのはそちら(理事側)が悪い。当方の間に答えなかつたからである。昭和四十八年以来夏はいやであるとい通してきた。会員による日本女医会である。日本人として国際会議を成功させたいと思う。この度のことは紛争ではなくして問いかけてあった。理事会は案をつくり、評議員会はそれを練り、会員が決定する、という会員を中心にしてほしい。会員あつての会である。アンケートを出したこと等について種々のことがあつた。

戸田氏 産経新聞に日本女医会のことと掲載されたが詳細を新聞社に報せたのは誰か。

小出氏 小出自身には解らぬ、発行した小冊子は多数に配布した。それから引用してあると思われるが誰の手からもらったかは解らぬ。

橋本氏 新聞の内容はいかり心頭に達する内容のものではない。

小出氏 早く臨時総会を開けば出さぬ文章であつた。早く答を出さぬ理事会が悪い。

議長 会員に対し質問の有無を重ねてうかがう。会場の発言はすべて議長をおして行うことをうながす。

加集氏 小出さん側の文章の中にはいいものと悪いものとあつた。山梨総会で free-talking の時間が少なかつた。

た。食事等しなくても話合いをすべきであつた。食後の懇談の時に理事が一人もいない。三神会長と小野理事だけであつた。(実際は数名の理事が出席していた)国際会議は医学の研究会ではない。親睦でいい。執行部不信任。

阿部氏 国際会議に度々出席。よい季節開会を小出氏に賛成し、理事にうながしたがききいれられなかつた。本日の開会を先輩に謝す。国際会議出席に際し、会から旅費が支給される場合総会にかけるべきである。金銭はフェアにあるべきで、免税の方法もある。

熊手氏 小野、三神、山崎の三氏があやまったが、それよりも釈明の理由をききたい。

松本氏 国際会議各係の労をねぎらい、登録者が本日の会の開催により増すことを期待する。

野村氏 総会の会期、組織委員の問題、会期変更に関し山本理事の説明をもとめる。

山本氏 問いに対して説明。なお小野氏が山梨総会懇親会後の懇談会中、会期等一部変更について外国の諸氏の意見をたづねることを約束、翌日朝即刻、秋に変えたいがどうかとの内容の手紙を発信。決定的な文章をあの時点で発信したのは小野氏早計という意見もあつた。

小出氏 文章を出した事で皆さんの頭を混乱させたことを陳謝す。握手していいか。

北沢氏 今日までの事は水に流すという事を小出さんから、今、言つてほしい。

小出氏 高知の人に相談してからでないと云えぬ。

熊手氏 本会は運営が不得手、理事会とくに下手。体質改善すべし。

北沢氏 小出側は臨時総会を開いたらもう直ぐ握手すると言つたではないか。



握手する右から三神、山崎、小出の諸先生方

大原氏 小出さんの純粋な動機については認めるが、方法が不味かつた。また高知の理事に相談は筋ちがいであつた。なお、執行部側は積明でなくむしろ陳謝したのに対して、小出氏側はあまりにも高姿勢である。一方が託びるのでなく、双方が託びるべきである。

小出氏 私はあやまった。小出は高知の理事会総会で相談してから通知する。

井出氏 後日の相談に持ちこまずに今日が水泡に期さぬよう願う。理由如何にかかわらず何ごとにも水に流してほしい。

及川氏 小出さんは平会員ではあるが高知女医会の会長、須崎の医師会長であるから、重要ポストというわけで同志のためにとまどつたと察する。プラザを帝国ホテルにするとか、秋にするとかの一つを当方によこせの声もきかれるが今日の会の意義が何であるかを理解しなければならぬ。けんかせずにやりましょう。出席は個人の自由である。

山崎氏 大きな会はなかなかむつかしいので協力をお願いする。

議長がこれで、意見はないか、これまでいいかと念をおす。小出氏早く握手してはどうかと、せかされる。

国際女医会会議成功のため多賀 栗氏ご持参のダルマに片目を入れる。握手、午後四時十五分。

五、国際会議の準備状況報告

◎山崎事務総長 現在までに準備されたあらましを報告。組織委員の成立及び構成について説明。各地支部長に推薦かたを依頼、国際会議に出席した方等をふくめて組織委員数四三五名。委員会開催の席上で、今後頻繁になる委員会に旅費なしで、かつ、時間をも割愛くださる方々にお申し出願い、その方々を常任委員とした。各分担任をきめ、活動中である旨説明したのち、

(a) あらためて組織委員の承認をもとめたい。 一承認

(b) 会期、会場および東京妃殿下ご臨席について。会期は決定どおり夏、会場は新宿京王プラザで開催のこと、妃殿下ご光臨は現在の社会情勢にかんがみ中止。 以上すべて了解。

(c) 東京都医師会、日本医師会から後援の承認。厚生省の骨折りにより国庫補助決定。

◎丸山実務委員長 委員十二名、それぞれ責任者としてがんばる。みやげ品の内容については、すでに発注のものもある。同伴者、コムパニオン等の考慮、招待者、来賓のリスト・アップ等の仕事進捗中。

◎藤井僑子学術部長 会誌に発表済みではあるが演題数は予想五十のところ現在七十九、八月二十三〜二十六日の間に一般演題、ワーク・ショップその他を終了するために二会場を設営する。

五十年九月中旬国際女医学会の学術委員長来日、日本側から委員一同と事務総長、国際女医学会長の同席を得て座長および副座長のあらましを決定し、依頼状を出し、すでに承諾の返信も多数ある。今年の一月十五日が抄録の締切り。

昨年十二月末口演内容記載用紙を演題申込者に返信封筒をそえて発送する。ノ切三月三十一日。なお原稿の到着完了をまって講演集(英仏語・日本語の内容抄録が入る)をつくる。特別講演は東北大・石田名香雄教授に依頼済みである。

◎柳瀬路子募金部長 四十九年八月二十五日、組織委員会にて一人二万円の寄付金をきめる。昨秋からぞくぞく寄付申込あり、ただし大口寄付がうまくゆかないので会員の寄付をぜひお願いしたい。

◎福永ひろ子経理部長 別紙
◎大原一枝登録部長 国内登録六十七名、外国人二十三名、早目に登録を願

いたい。

◎中村西子渉外部長 (一)病院見学は東京女子医大病院、国立小児病院(四十〜五十名)、都立駒込病院の三病院をす

でに交渉済み。(二)旅行およびレセプション。日本女医学会主催のレセプションには会員の余興等も可。アイデアを出してもらいたい。パンケットのプランを練っている最中。日光旅行には日本女医学会も多数参加がのぞましい。交流を深めるいい機会である。夏休中であるから同伴者(子供、主人)多数と予想、費用は別途会計としてプランを立てる。(三)日本人の家庭を開放する、生活をみせる意味で家庭によんでもらう。招待等とは別の意味である。外国人は日本を詳細に知りたがり家庭訪問をのぞむのでお申し出をま

つ。以上の報告事項に質問を受け承認される。

各部報告に対する質疑
白浜氏 組織、予算、会場、コンベンション・サービス等について他人から大きくことと会員に対する説明とが何故異なるのか。理事会において、少数人数でできるのは戦前の御用組合の感があるがそれについてききたい。

山崎事務総長 コンベンション・サービスと金品の関係は一切なし、組織委員もまた会員も医学にたづさわって

いて日常の事務、ことに外国語の通信その他山積する繁多な仕事を処理し得ないということに会議にたれた会社に

依頼するつもりであったが、我々の国際会議は他の国際会議と事情がことな

り、まかせ得ないことが解り、「くいちがい」も出来て全面的な依頼は中止とした。

多田氏 国際会議の組織委員会と日本女医学会との関係について混乱を招くので細則でも作ってはどうか。

野村氏 私は百七十床の病院をやっているのだからいろいろの経験を持つて

いるつもり。この会は無駄づかいをする。予算の数字が高すぎる。
福永経理部長 印刷費の説明を詳細にする。予算とは実際に使用した費用を計上してある決算とは異なるもので、あくまで将来を見越してこの位かかるであろうという数字である。ここに示した数字予算はしたがってグロブなもの、余裕を持たせた数字をあげたもの。なお予算以前の概算である。現在の準備状況からは未だ概算しか出せない。

野村氏 公認会計士の費用が高すぎる。
福永氏 説明。一了解
松岡組織委員 概算の概念を説明、概算について承認することを申出

る。
議長 承認するかしないかを問う。
拍手多数。一承認

福永氏 五月の総会前に会計の資料を会員の手元におくれとの声があるが間にあわないのでおくれな

い。守安会計理事 五月総会までには経験上時間の間隔が短いことを知っているのでもって送れない。
松岡氏 送ることは時間的に間にあ

わない。
小出氏 理事会できめないで、総会

できめるべきである。
山本氏 経理の計算(概算)を本日

とおさぬとこまるから出したのである
山崎氏 予算を出すことと、本日の

会とは、異なることを了解してほしい。
福田氏 役員選挙は本年五月の総会

でおこなわれるはずであるが、国際会議がすんでからにしてはどうか、万博の年にもすんでから総会をし、選挙した例がすである。
山崎氏 組織委員会の成立の説明。

小出氏 九月まで委員をするのか。
議長 組織委員会を承認するか否か

を問う、
山崎氏 選挙は役員改選期ときめられた時期に実行する。従前どおり定められたとおりにする方がいい。
小出氏 支部が本部から支部助成金をもらう際、振替口座をもっている

互に便利である。
閉会の辞 丸山実

実 充分の討論をつくし得たことを謝す。国際会議を成功させるように今後

応援をよろしくたのむ。
以上

(記録員 久保田・石田・熊谷・野中・湯本・藤井)

臨時総会の仲介人として

中央区支部 荒川あや

加する会にしなければいけないということを感じました。

また役員さんも国際女医学会をむかえるための努力はわかりませんが、会員に情報の流しかたが行きとどかなかつたように感じました。

昨年の春頃から両者の意見を聞いて、定款の勉強をしたりして、十一月二十五日の理事会に私も仲介者四人が出席して臨時総会開催に運びたいとひたすら願ったのですが、はたされず明けて一月二十五日やっとトップ会談となりました。

和解の道は臨時総会を開く以外にないという点で、合意に達しそれぞれの

約束を条文にしました。
臨時総会の開催条件

理事側(三神、小俣、山崎)
1 国際女医学会長の釈明(夏開催に對し)

2 三神会長、山崎副会長の釈明。

3 及川、小出、三輪氏の釈明。

4 諒解がつけば壇上で握手。

5 臨時総会は明正に運営成立させること。

6 臨時総会が流会または不成立の場合に成立するまで招集すること。

会員側(及川、小出、中田)

1 臨時総会の案内状が発送された時点で提訴棄却すること。

2 臨時総会は和やかに執行出来るよう努力する。

3 臨時総会が流会または不成立の場合、成立するまで要求をつづけます。

仲介人側(井出、北沢、荒川)

1 臨時総会開催については、会長、副会長が理事会に全力をあげて懇願して頂きたい。

2 仲介者は円満解決について極力責任を持つこと。

以上の線まで徹底討議の結果結論を得ました。これにもとづいて緊急理事会が開かれ臨時総会開催が決定されました。

その案内状をだす時点でも又難問がおこり、こんどこそ仲裁役をおりたいと思いましたが、国際女医学会を目前にしている、会員の皆様にも心よりすまなく、小出姉側によつて頂き、提訴棄却が弁護士によつてなされました。

臨時総会場も熱心な出席申込者が多かったので至誠会館四階から急遽広い東京女子医大講堂に予定をかえ、所要時間は一時から五時半となりました。会場から多数の発言があり、議長のご配慮もあって、両者の釈明の内容に多少のニュアンスの違いを残しながらも、互譲のもとに握手がかわされました。

仲介者の一人、故中村キヌ姉が

1 根本治療は定款の運営と改正。

2 年寄りの会員が仲裁するのでなければ、なおさら世間に対して恥ずかしい。

臨時総会に出席して

宮城県支部

安倍マサ

十日程前に、女医会本部から「臨時総会に出席して」という題で意見を述べるようにとのことでした。

毎日のように書くころと思いつつくりペンを取る時間がなく、遂に締切が明日に迫ってしまいました。仙台の町はずれで半分内職程度な開業をしておる私でさえ、こうした忙しい毎日です。まして大都會の中で一人前の開業医として活躍しておられる先生方が日本女医学会の執行部の大多数を占めているわけですから。

この度の国際女医会開催に関係した諸問題は、その源泉はこうした多忙で法律的な知識も十分に勉強する時間も

3 私は身辺を片ずけてこの世に心残りはないが、このままで冥途へ旅立ちでは日本女医会創立者吉岡弥生先生に会わず顔がなく、考えだすと眠れなくなる。

との言葉を最後の電話で話されたのち、一月十二日の午前十一時頃急逝されました。

中村キヌ姉の靈に答えるためにも、どうぞ会員の皆様、手に手をとりあって、国際女医会を価値高く、成功させ日本女医学会の基盤を強めてくださいませ。

なく、また始めての経験で雑多な諸問題を解決する手際が未熟であったというところから起因すると思われまふ。言わば必然の結果だと私は思っております。日本女医会、広く言えば私共日本の女医に取って、この度の問題は社会的成長への一つの大きな布石であるべきです。

具体的に申せば日本女医学会の事務局に法律の専門的な知識を持った人「男女を問わず」を一人嘱託の形でもよろしいからアドバイザーとしておくべきです。常に会の運営面、その他複雑な問題と法的なかわり合い等を常識として涵養してゆくべきでしょう。どんな

国際会議準備状況その後

組織委員会 事務総長 山崎倫子

な会でも全国からはるばる多かれ少なかれ犠牲を払って集って行くのです。些細なことでも慎重に計り、充分会員の納得の行く形で、また法的にも適合したやり方で遂行されれば今後同じ轍を踏まずに済むことでしょう。一人一人深く反省し少しでも私共女医の社会人としての成熟に役立てたいものです。すでにご存知のように去る二月二十

二日なりゆきを案じておる多数の会員の出席の許に熱気溢れる臨時総会が持たれました。先輩諸先生のご尽力により、とにも角にも日本女医会が一本になって国際女医学会の開催に当ることが出来るようになったことは誠に同慶の至りです。

願わくば今後とも何ごともなく盛会裡に国際女医会が終了することを切に祈ります。

国際女医会第十五回国際会議につきましては日頃から格別のご協力をいただきありがとうございます。開催まであと四カ月余を残すばかりとなり、心せかるる思いで懸命に準備を進めております。

一、会期は八月二十二日(日曜日)から二十七日(金曜日)まで。

一、会場は京王プラザ・ホテル(東京新宿)です。

なお宿泊ご希望の方は、郵便番号一〇三東京都中央区日本橋一丁目十三ノ一、五洋建設ビル内、日本交通公社外人旅行事業部内課にお申込みください。

一、登録は八月二十一日(土曜日)午後一時から八時までと八月二十二日(日曜日)午前九時から午後五時まで受け付けます。領収書と引換えに資料入りカバンをお渡し致します。会期前に

登録済みの方はお送りしてある領収書を必ずご持参ください。

一、登録費は四月一日以降となりましたので会員は五万円、晩餐会費共五万六千円、同伴者は四万円と四万六千円になりますのでよろしくお願い致します。

一、組織委員会主催の歓迎レセプションは八月二十二日(日曜日)午後六時半から京王プラザホテル、五階コンコード・ルームで行われます。登録なさいました方は全員招待されます。

一、厚生大臣主催のレセプションは八月二十四日(火曜日)にしたいだけることが決定致しました。場所は椿山荘ですが、登録なされた方々は全員招待されます。

一、免税指定寄付が認可されました。三月二日付官報に、大蔵省告示第十五号として掲載されました。これは

主として会社関係の大口募金にあてる予定です。

一、会員の方からのご提案で使用済切手を集めることにいたしました。本部に手がたりませんので、切手はまわりをきれいに切って、五十枚単位にまとめてお送りくださるようお願いいたします。すでに何人かの方からお送りいただいております。

いちいちお礼状はさしあげてごさいませんが、お許しください。紙上をかりて厚くお礼を申しあげます。

総務部

- 丸山 芙実・森 千鶴
- 山口 三重・竹内 静香
- 国分美池子・清水五百子
- 守屋 孝子・野沢 良美
- 石川 文子・吉田 実子
- 小川 昭子・森田 和子

①会期中に必要な小物

イ、会員資料ケース、記念品、その他

ケース：昨年来種々検討、見本を作らせ常任組織委員会に計り二月三日発注す。

記念品：予算額に合った商品部員各自持ちよりその中から会員の皆様に御納得がいただけるものとして金らんのふくさに決まり昨年未発注。二月納入済み。

ロ、ネームカード

会員同伴者、コンパニオンと色で区別、名前がよく読みとれる様スベースを大きくとりペンダントのように鎖でつり下げる。役職別はリボン、記章等で区別する。決まり次第近々発注の予定。

ハ、招待者来賓のリストアップを各部に依頼、その数を把握した上で記章を考える。

②会場の設営の詳細については今後会場において各部との連絡を取りながらホテル側担当者との細部の打合せを重ねて行く予定である。

募金部

- 柳瀬 路子・清水 友代
- 山本美代子・戸田 静子
- 八木 貞子・石田 妙子

第15回国際女医学会の開催も四月の近きに迫り、本部も準備に緊張度を増しております。昨年暮より資金の調達に心を痛めておりましたが、さすがに女医各姉の立上りは美事なもので、十二月・一月と協力の成果はぐんぐんと募金額を高め、二月末現在、

会員募金額 二七、〇〇六、一〇〇

一般寄付金額 一五、四七五、〇〇〇

に達しました。各支部長の先生方のご苦勞は大変であつたらうと拝察申し上げます。また、暖かいご協力を賜りました会員諸姉に心から感謝申し上げます。次に、各支部別の募金額を掲目にかけますが、ただ今、本部が雑多な事務に忙殺されておりますために、あるいは未加算のところもあるかと思われます。どうぞ御寛恕賜りたく、募金部一同紙上を拝借いたしました。失礼ながら、不馴れなため、種々不調法もありましたことをお詫び申し上げます。それにもかかわらず多大のご協力を頂きまして事を厚く御礼申し上げます。

編集部

登録部

生涯ただ一度の国際女医学会東京会議に是非ご参加を

- 大原 一枝・中西 清子
- 川島富久子・田那村恵津子

ここ数年來、本誌の毎号のどこかに必ず掲載されて来た国際女医学会の記事、またその会期を巡って紛争の起つた第十五回国際会議の期日がいよいよ四月先近づいて来ました。未だ余燐がいくらか残っているようですが日本女医学会の誰れ一人として日本開催に反対する人はないという点から、既に四月月あまりに切迫している東京会議を何とか立派に遂行できるように準備万端にわたって懸命の努力を傾けるべき時がまいりました。

一時は、たとえ会が分裂して会員が半分になつても、一旦ひきうけた東京会議である、半分のスケールになつても、日本女医学会の名譽にかけてやりぬくほかはないという、万一の際の覚悟まで決めた私共でありましたが、さいわい円満解決のいとぐちが見出され、全員一致で東京会議が迎えられることは何より嬉しいことです。

さて国際女医学会の総会、即ち、国際会議は過去十四回にわたつて、マニラ(第九回)、メルボルン(第十二回)の僅か二回以外はすべて欧米各国でひらかれて来ました。今回の国際会議の日本招致が決つたのは昭和四十六年高知市で開催された日本女医学会総会の席上で、しかも万雷の拍手のもと満場一致で決つたことはご承知の通りです。

待望の東京会議なのです。大方の日本女医学会員にとって生涯二度と来ない唯一度のチャンスです。

高知の総会で小出姉や及川姉が力説されたように、外国で開催される会議に参加しようとすれば否応なく百万円以上の費用が要るのです。それでもなお過去何回かの会議に、百名をこえる参加者を送つて来たわが日本女医学会です。会員総数四千五百を算えるマンモス女医学会なのです。ホステス役をつとめる肝心の日本女医学会参加者が少いようでは、会の内容が如何に豊富でも、盛り上りに欠け、遠来のお客さまに果して満足して頂けるでしょうか？

けあつて百年の友になれます。どうか皆さま、全国各地から老若お誘いあわせの上多数ご参加くださいますようお願いいたします。

登録手続は左の通りです。

登録は所定の用紙(本部にあり)を使用、登録費は

会員 五万六千円(晩餐会共) 同伴者 四万六千円(〃)

なお三月末日現在の登録状況はおかげさまで左の通り増加しました。

国内 総数 五三七名 外国 総数 二九二名

広報部

- 上田 葉・湯本 アサ
- 熊谷美津子・佐藤千代子

第十五回国際女医学会も余す所一七〇日余、いよいよ最後の準備期間に入り、着々と進められて居ります。

本年二月の臨時総会では、会長よりのご通知通り、先輩のご努力、熱意は勿論ですが双方の会に対する深い理解もあって、提訴(民事訴訟)は取下げられ、相寄り握手を以つてめでたく和解されました。この事はさつそく朝日新聞の「ぶりずむ」にも掲載されて居りました。何よりも喜ばしい事で、これからは一致協力、全力をあげて準備に邁進出来ると存じます。

我々広報の仕事は、今の所、会長、事務総長、組織委員会からの挨拶、事

務連絡等と重複するので、特に広報として表立った事はいたしていません。

昨年十一月には都医広報部長と違ひ、その後の経過、事実等につき種々質問あり、十一月十五日号に、初めて日本で開催される国際女医学会が大成功裡に終了される事を心から期待されるものであると結ばれた記事が掲載された事は、東京都医会員はもち論の事、地方の方々に御覧頂けたものと存じます。こうして内外共に期待を持たれてゐる国際会議、どうぞ千載一遇の機会とおぼし召して一人でも多くの方々が出席して下さることを祈っております。涼しいホテルの内だけで何もかにもすませられる事ですから、どうぞその点は御心配なくどしどしご出席ください。

広報は会期中が一番大切な時、その折は表に出る事なく、一室で誰に何を聞かれても、何の連絡があつても、間違なく即座に速い処理が出来るよう、充分に全体を把握し一人々々を観察、遠来の客、会員に不便のかららないよう、翌日の予定にも迷われる事ないようやうやくつもりです。

今は唯縁の下の力のつもりで組織委員の方針に従いそれなりの働きをさせて頂くだけのつもりであります。

(51・3・20)



学術部

久保田くら・藤井 儔子
添田 百枝・福島 峰子
橋本 葉子

一月十五日が締切りの約二〇〇語の抄録もウィーンの本部にて揃つたよう、Mrs. Dax から三月末届いた手紙によると、英語はフランス語に、フランス語は英語にと、すべて翻訳をやり、あとタイプするばかりとのこと。このタイプも日本ですぐオフセット印刷ができるよう Mrs. Dax が心よく引うけて下さったものです。これに日本語訳をつけた抄録集ができて上がります。さらに、一演者の口演内容は、印刷二頁分として計七十九題が口演要旨集にのり、会員として登録された方々には会期直前の登録の際にお渡しします。この講演内容もわかりやすくなると思えます。当日はワークショップ以外は専門の同時通訳がつかますし、ワークショップも英語に堪能な先生方が通訳して下さいますので沢山の日本の先生方の発言を期待しています。目下、口演要旨が所定の用紙にタイプされて送られるのを待っているところですが、三月三十一日締切りましたが、まだ揃って居りません。

日本と世界各国間の外交関係の約束ごとから、ビザの発行が遅れていた南アフリカ共和国の先生方も、三月に入つて許可され講演も可能となったことは大変嬉しいことです。

これらの国との関係は、女医学会の国際会議ばかりでなく、日本において開催予定であった各種の国際会議の準備にあたり、皆がぶつかっていた難題でした。

あまり大勢はいらっしゃるまいと思つていたイスラエルからも二、三十名のグループを組むかもしれないとのお便りもあり、外国からの参加者は、当

女医実態調査中間報告

調査委員会

柳瀬・小野・湯本・八木
竹内・森川・佐藤・川島

まず、第一番に、会員の皆様から絶大なご協力をいただきました事を心より感謝申し上げます。

お蔭様で一月末の回収数は我々の目標であった五、〇〇〇に達し、計算機にかけるため渡しました数は五、〇〇七。その後も増加いたしました。総数五、〇五二に達しました。この数には厚生省医事課も統計局も驚いておられました。集計結果に大きな期待を寄せておられます。とりわけ私共の嬉しかったのは五、〇五二通の中、官公立卒業生のアンケート数が一、四三八あった事でございます。

我々も張り切りまして、一月、二月は在京の委員(柳瀬・湯本・小野・八木・竹内)が五日間、三十二時間の奉仕をいたしましてパンチカードを作る前の、チェックをいたしました。目下コンピューター処理によって、データ

初の予想を上まわり五〇〇名にはなるのではないかと考えています。八十もの演題が発表されること、外国からの参加希望者も多いことから、是非、大勢の日本の先生方が出席され、各自の専門の見地につけて他の領域の現状・進歩を学び、また、いろいろ意見の交換をしていただけたらと念じて居ります。

したが、理事会でパンチカード作成までの実費をお認め頂きコンピューターにかける費用は某教授のご厚意により無料奉仕して頂く事になりましたので、あとは総会の節に調査費用をお認め頂きたく存じます。

なお、理事会では継続事業としての仕事を発展させてゆきたい意向を持っており、この点も会員諸姉のご賛同を得たいと存じております。費用に關しましては厚生省に研究費のお願いもしておりますが、さしあたりその一助として住友電工との間に診療報酬請求機械(SMACS)の使用契約をしていただきますと女医学会に二・五%のバックがあるという約束をいたしましたので、ご案内がありました時はご協力いただけますよう、あわせてお願い申し上げます。

(51・3・5)

Circular Letter No. 38

国際女医学会本部通信

国際連絡書記

佐野 アヤ子(訳)

昭和五十一年二月二十日

前文省略

Preliminary Program 及び Registration Form を受け取ったはずですが、本年三月三十一日以降は登録費も高くなりますので早く登録して下さい。

最終 Program は会議のはじまる時に配布します。

Congress Proceedings も同時に配布します。Abstract のまだの方は早く本部に送って下さい。口演要旨全文の切りは最終期限を忘れないで提出してください。

国際女医学会会議の主な日程
八月二十二日午後三時 国際連絡書記の Tea 及び Briefing
八月二十四日午後二時三十分 総会

八月二十六日午後二時 総会
 午後五時 閉会式
 総会における理事及び評議員に関する規則

各国の女医会は理事会に一人の代表者を出す資格がある。会員二百名ごとに対して理事者を一人加える。しかし五人以上の理事者は認めない。さらに各国の女医会は理事一名に対して五人の評議員を総会に送る。すなわち五人の理事に対して評議員は二十五名となる。

国際連絡書記は出来れば理事であること、欠席の場合は代理人を必要とする。

その国の理事及び評議員の許された数より少い場合、出席代表団の "fill vote" が要求出来、有効投票数に加算される。

総会時の理事及び評議員の名前を七月一日までに本部に提出すること。

協議事項の一部は次の通り。

一、物故者
 Congress Report に記載するため
 にブラジル会議以後に死亡された
 会員の名前を提出すること。

二、国際連絡書記報告

総会時、時間制限のため全部は報告出来ないが、Congress Report に全文が記載されるので、一九七六年七月十五日迄に本部に、国際連絡書記はブラジル会議以後の統計的報告(人口、医師数、女医数、等)と会務報告を提出すること(用紙は次回サーキュラーとともに送付)。

三、国際女医会に最も貢献した会員を名譽会員として三名選ぶ。

五十年会員もまた表彰される。一九二六年に入会した会員の名前を本部に提出すること。二月十五日締切まで返事があった国が少ないので至急提出のこと。

四、第十七回国際女医会会議 (一九八〇年)

イラン、南アフリカ及び英国より招待状あり、他の国も東京会議までに招待状を出す事が出来る。無記名投票により、場所を決定する。

一九八〇年の議題は東京会議で決定される。Dr. P. Tudbury, Chairman of Topic Committee が東京会議の総会で議題を出し投票で最終決定される。現在は、次のような案が提出されている。

- (1) 代謝障害
- (2) 腎臓疾患
- (3) 皮膚
- (4) 発展途上国における医療の優先権

Main topics やワークショップに対する意見をまだ受け付けています。

五、一九七六―一九七八年の国際女医会の会費は各国女医会の会員一人が五スイスフラン、個人会員は十スイスフランで前年通り。

六、その他の協議事項
 Dr. Lawrie (英国) が閉会時の決議の委員長として決まった。決議の提出の覚え書きは、次の Circular に出すので、各国の女医会においても討議してほしい。

Martha Kyrle M. D.
 Honorary Secretary

加多乃会館落成披露宴に列席して

大阪支部 綾 仁 伸 子

寒気もようやくゆるみ初めた二月二十八日に関西医大の同窓生有志のご寄付により、出来上がった加多乃会館の落成式に至誠会を代表してお祝に参列致しました。(日本女医会代表として山口三重理事参列)

守口市滝井の関西医大病院より歩いて五分の地点で瀟洒なうす緑の鉄筋コンクリートの四階建て総床面積は四九二・四四平米で、総工費は約一億一千万円との事です。一階は事務室とクロークと、管理入室。

二階は小会議室と中会議室と和室と洗面所等。
 三階は大会議室。
 四階は小集會室。
 より成り、起工式は五十年九月一日、上棟式は五十年十一月十六日で約六ヶ月で竣工し立派な会館として二月二十八日竣工式を迎えられ、披露宴を挙行されたわけです。

会館目的としては財団法人加多乃会館事務局として、また、同窓会本部事務局として、加多乃会の活動の本拠として作られたもので、今後加多乃会の色々の活動に使用され、また、地区の福祉面でも活用される事と思います。当日は会長川那部喜美子先生のご挨拶があり、岡学長先生のご祝辞、それに列席の地区会長のご祝辞があり、ま



た、大原一校先生の経過と今後の運営についてのご挨拶もありました。

当会館の今後の発展に期待をかけて教授の先生が乾杯の音頭をとられ、私も一言お祝を申しのべ、東に至誠会館、西に加多乃会館と同窓生有志の寄付により、よい会館の出来た事は日本女医会にとっても本場に結構な事と御祝い申し上げ、今後の発展をお祈りしつつ辞した次第です。

理事会議事録

日時 昭和五十一年一月二十四日
 (土) 午後三時～四時
 場所 京王プラザホテル四十二階
 武蔵の間
 出席者(敬称略)
 小俣、川那部、山崎、大原、小野、久保田、佐野、丸山、守安、柳瀬、中川、福永、石田、川島、熊谷、佐藤千、白橋、竹内、中西、野中、

藤井、真鍋、森川、山口、山本、湯本、八木、佐藤、派田、戸田	欠席者(敬称略)	三神、上田、稲葉、長池、福島、森	庶務報告	久保田常任理事
張 生	妹(山形県)	昭五〇・九・四	・会員物故者	
竹内 茂	代(名譽会員)(茨城県)	昭五〇・一二・一五		
古 門	フキエ(兵庫県)	昭五〇・一二・一五		
小 野	敬(宮城県)	昭五〇・一二・一八		
中 村	キヌ(神奈川県)	昭五一・一・一二		
・退会者	十六名			
S 50・12・11	小野春生常任理事御母室	ご逝去		
12・15	竹内茂代名譽会員逝去、			
	国際女医会本部より、			
	文・弔電あり。			
	本会より香典一万円。			
	湯本理事出席。			
12・26	川野辺静参議員、厚生政			
	務次官就任に対し、祝電			
	をうつ、礼状あり。			
S 51・1・12	中村キヌ前理事逝去、本			
	会より生花を供す。			
	吉岡賞候補者			
	蔽内 英子(微生物学)			
	新井 タネ(へき地診療)			
	会計報告			
	別紙の通り。			
	守安常任理事			
	議題			

一、女医の実態調査について

柳瀬常任理事

(1) 前理事会決議によりパンチカードの整理が出来、コンピュータにかける段階である。コンピュータは東邦医大・額田榮教授が好意的に整理してくださるので、実態調査完了の見通しがついた。

(2) 住友電工製診療報酬請求書作製コンピュータの件
一台販売につき還元あり、これを女医の実態調査費用にしたい……次回検討する。

二、日中友好婦人の翼(第一次訪中団)について
日程 一九七六年八月月上旬(十三泊十四日)
訪問先 北京、上海、その他
団の構成 一四〇名(一団休より四名推薦できる)
費用 二七万円
申込方法 一九七六年三月十五日必着(団体推薦書提出)
ただし、申込みは二月十日まで

三、国際女医学会の件

山崎副会長より裁判に関する詳細な経過報告あり、三神会長立替金の弁護士報酬金七十万円と今後の費用十万円とし、計八十万円支出の件につき検討す。
支出方法として
(1) 本部剰余金をとりくずす
か
(2) 国際女医学会経費とする

か
(2) 理事で負担するか
以上の件、次回理事会まで懸案とする。

(久保田 くら)

理事会議事録

日時 昭和五十一年二月二十八日

場所 至誠会本部四階会議室

出席者(敬称略)

- 三神、山崎、小野、久保田、佐野、中川、福永、丸山、守安、柳瀬、稲葉、熊谷、白橋、竹内、中西、長池、野中、藤井、真鍋、森、森川、山口、山本、湯本、八木、佐藤、添田
- 欠席者(敬称略)
小俣、川那部、上田、大原、石田、川島、佐藤千、福島、戸田

庶務報告 久保田常任理事

1・25 トップ会議を行う、於 ホテルオークラ

1・28 緊急理事会(臨時総会開催について)

2・5 訴訟却下の連絡をうけ、臨時総会開催通知を全員に発送す。

〃 全国医科大学女子卒業生に当会に入会の勧誘状を発送す。

2・19 支部助成金を簡易書留にて発送す。

2・21 臨時常任理事会(臨時総会について)

2・22 評議員会を行う、於 佐藤記念館
臨時総会を行う、於 東京女子医大講堂

〃 会長挨拶状発送(臨時総会経過報告)

2・26 古岡賞審査会を行う。

2・28 日中友好婦人の翼第一次訪中団代表として、湯本アサ理事参加

会計報告 守安常任理事
別紙の通り

議 題

一、定時総会について

(1) 役員選挙の件 告示(会誌六十五号)の説明あり、立候補届けは定款施行細則十八条により、昭五一・三・一八までに書類提出すること。選挙に関する細則は前回通りとする。ただしコンピュータは使用しない。
(2) 会費長期滞納者の取扱いについて
会費五年滞納者、十年滞納者を次回までに調査し、その上で検討の上、総会にかける。

(3) 定款改正の件 定時総会に提出されたものをもとに問題点を研究し、定款改正委員を構成し、アンケート様式で問い、委員会に提出してもらうことも一案では、運営に支障なきものは問題外である、よく検討しなければ定款は簡単に改正できない

等の意見があった。

(4) 弁護士報酬の件
裁判は社団法人日本女医学会が訴訟されたものであり、本部会計より支出することに決議す。

(5) 国際女医学会会費について
国際女医学会会費を年会費と別に徴収するか、どうかの問いに対し、十二月末までの会費納入者数を対象に支払っては如何かとの案あり、一九七六年は一、五七七名分支払うことを決議す。

二、無医地区診療への助成金について

別表の昭和五十年決算及び昭和五十一年度予算にそい、来年度三〇万円を東京女子医大無医地区研究会に助成すること
一承認

三、女医の実態調査について

調査費用(パンチカード作成)約七十万円支出 一承認
この事業は来年度の継続事業であるが、今後の必要総額経費を提出してもらいたいとの要望あり、これに対して事業部より女医実態調査委員会にはかつたうえ、次回発表したい。

四、診療報酬請求機械サービス(SMACS)の实物説明あり、売上げ額からリベートが還元されるので、これを女医実態調査費用に充当すること 一承認
婦人参政権行使三十周年記念大会分担金および拠出金について
NGOとの関連あり、分担金と

して一万円支出決定。
(久保田 くら)

編 集 後 記

国際女医学会東京開催をめぐって、期日、場所などのとりきめや運営について、一部会員から理事会に対して根強い批判が起り、これが際限なく白熱化した。しかし元老格会員の仲介で、両者の話し合いが整い、臨時総会でお互に大乗的見地に立って譲歩して手を握り合った。まことに胸迫る思いで嬉しい光景であった。この了解一致は国際女医学会を目前にひかえて逼迫した事態に備えての余儀ない表面的な妥協であってはならない。

この苦い経験を通して私たちは今後の日本女医学会をより大きく根深く安定させ、ゆるぎない存続のマイルストーンとしたい。

そもそもこのいざこざの発端は会員の熱意によるものであった。国際女医学会東京会議の成功に一人一人の精力を集中してゆこう。

湯本アサ

昭和五十一年四月二十日印刷
昭和五十一年四月二十五日発行

編集人 大原一
発行人 日本女医学会
発行所 東京都新宿区市ヶ谷河田町19
社団法人 日本女医学会

印刷所 東京都港区白金五丁目一
興栄美術印刷株式会社